



## SGHの取組 特設3講座（高3対象）

### I. 観光開発講座

今や日本経済の発展において重要な一産業として確立した「観光」に焦点を当て、「地域と観光の連関性」をテーマとして、観光行政、観光と地域づくり、観光プランニングなどを中心に学びを深める。学習を進めるにあたり、JTBスタッフとティームティーチングで授業を進め、専門的なアドバイスを受けつつ、高度な分析と地域研究を進めることを目指す。

#### 2018年度の主な取組

- ①観光学・ツーリズム概論（ツーリズムに関する動向や北海道観光の現状と課題）。
- ②サハリン研修3泊4日（選抜）事前事後学習。
- ③北海道内観光プランニング、サハリン研修報告書作成。
- ④農林水産省北海道農政事務所担当者、北海道国際局国際課、立命館大学食マネジメント学部教授、JTB教育旅行担当者 他を対象として報告会を実施。
- ⑤立命館大学食マネジメント学部との連携。

### II. 国際社会講座

「多文化共生を共に創る」を課題研究テーマに、北海道で学ぶものとしてアイヌの歴史文化に対する理解を深め、文化振興のあり方について学習する。この講座をとおして、自分と異なる立場に「共鳴」し、仲間と協同して着地点を「創造」できる思考力と行動力を獲得することを目指す。

#### 2018年度の主な取組

- ①「北海道とアイヌ」をテーマに北海道とアイヌの歴史の概要を学ぶ。
- ②「国立「民族共生の象徴空間」構想の到達点と課題」をテーマに、内閣官房アイヌ総合政策室北海道分室の佐藤久泰内閣参事官を招いた特別講義を実施。
- ③「北海道旧土人保護法を忘れないために」をテーマに、北海道博物館の小川正人氏（学芸副館長・研究部長・アイヌ民族文化研究センター長）を招いた特別講義を実施。
- ④「樺太アイヌと江別」をテーマに、江別市郷土資料館学芸員の園部真幸氏を招いた特別講義を実施。
- ⑤「アイヌ語学習」を実施。特別講師として平取町立二風谷アイヌ文化博物館の関根健司氏を招き、全9回の特別講義を実施。
- ⑥「アイヌの文化」をテーマに、アイヌアートプロジェクト代表の結城幸司氏を招いた特別講義を実施。
- ⑦「アイヌ語の伝承・普及」をテーマにした課題研究の実施。最終授業日に発表会を実施。

### III. アジア学講座

東南アジアの知識を得るだけでなく、そこで得た知識を日本が抱える問題や他の社会問題に置き換え、主体的に解決策を考える力や、国・民族の違いを超えて解決しなくてはならないという使命感・責任感、他者との協働作業で重要となる協調性などを身につけさせることを目標とする。そこで、多様な民族が対立・共生する東南アジアについて、紛争・歴史・開発などのいくつかのテーマを設け、詳細な学習を行う。また、アジアの抱える社会問題に取り組む活動をより深く理解するために、北タイでの研修プログラムを実施する。

#### 2018年度の主な取組

- ①国際協力理解：国家間の援助をテーマに、国際協力の在り方や援助の捉え方・視点などを学習・考察。ダイヤモンド型ワークを用いて、国際協力に必要な観点を学習・考察。
- ②国際経済理解：国際貿易ゲームを行い、国際貿易が抱える矛盾・問題点を理解。
- ③APU学生NGO団体PRENGOの特別講義：SGHタイ研修に向けた学習。
- ④3テーマ別学習：カンボジア内戦、東ティモール独立、ミャンマー（ビルマ）の民主化の3テーマをグループでそれぞれ発表。
- ⑤APU（立命館アジア太平洋大学）との高大連携講座：教授3名（李教授・淵ノ上教授・大塚教授）による講義と生徒の発表。
- ⑥アジアの戦争・紛争：第二次世界大戦時の沖繩戦、ミャンマー（ビルマ）の紛争。
- ⑦開発・支援ワーク：北タイの山岳民族の村を舞台に具体的な開発・支援について考察。
- ⑧SGHタイ研修：今年度の研修内容の検討、事後発表。

## SGH 海外研修

### I. サハリン研修

観光開発講座の「実習」として、ロシア共和国サハリン州ユジノサハリンスクを訪問



し、実地での地域調査の手法と情報の整理術、提言方法を学ぶ。「食を通じたインバウンド観光の推進」をキーワードとし、北海道・サハリン両地の観光資源発掘・整理・魅力の発信及び観光プランニングを模索し、日本及び北海道への外国人観光客の誘致のための具体的な方策やその政策提言、ならびに現地での実地調査の中でインタビュー調査や学校交流を行い、さまざまな人々と交流を図り、豊かな多文化共生を築き、未来を担うグローバル人材を育成することを目標とする。

### II. NZ 研修

先住民保障政策の先進国であるニュージーランド（AucklandとWhakatane）を研修先とし、「マオリとの共生を学ぶ」をテーマに、マオリの文化をどのように保護し継承しているのか、どのような問題があるのかを現地学習・活動・インタビューを通して調査することを目標とする。この学びにより、「アイヌ文化との共生」をより具体的・詳細に考えることができるようになる。



### III. タイ研修

パヤオ県にあるNGO施設YMCAパヤオセンターとバーンタム村に滞在することで、多文化共生を考える一つの経験を得て、これまでと異なる視点・意見・考えを持てるようにすることが目標である。

